

【質問内容】

1. 2025年危機を乗り越えるための財政計画について

9番作野幸憲議員、質問席に移動願います。

〔9番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員の質問は一問一答方式、質問時間は30分間です。作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 議席番号9番、作野幸憲でございます。

それでは、早速一般質問をさせていただきます。

さて、今回私が質問をさせていただくのは、「**2025年危機を乗り越えるための財政計画について**」のみでございます。よろしくお願いいたします。

まず、2025年危機とは一体何なのか。世間では、今2025年問題がささやかれております。2025年問題とは、団塊の世代が75歳の後期高齢者の年齢に達し、医療や介護などの社会保障費の急増が懸念される問題を指しております。

そして、今安来市では、昨年12月に示された中期財政計画で2025年には全ての基金が枯渇する予測が示され、大きな問題となっております。この意味は何なのか、このままでは破綻しかねない状態にあるということです。基金に頼って財政運営をしている安来市にとっては、乗り越えなくてはならない非常に大きな危機的問題なのです。そこで、私は2025年危機と今回表現させていただきました。

先ほど述べましたように、昨年12月に示された中期財政計画には、一昨年に示された計画とは大きな違いがありました。先ほども述べたように、それは全ての基金が2025年に枯渇する予測が示されていたことです。前年度示された計画では、2025年には基金が約38億円残っているはずだったものが、1年間で大幅に減ってしまい、なんと枯渇してしまう計画になっておりました。

その要因は、今年から始まった会計年度任用職員制度の導入や大型建設事業に係る市債の償還、扶助費の増加、そして市立病院や工業団地整備事業への繰出金などが影響したものであると思います。それにしても、1年で約38億円変わるのとは容易に理解することが私にはできません。それでも、このことを示されたことは、一方で市長自身が安来市財政の厳しさを認め、責任を持ってこの危機を乗り越えなければならないという強い意志を示されたものだと思っております。しかしながら、今日に至るまで市長から危機感というものを感じることはあまりありませんでした。市民に心配をかけたくないの分かりますが、自ら認めた財政計画をホームページでも公表しておられるわけですから、現状を市長自ら市民に伝えるのも政治の責務だと私は思います。

現在、安来市は、単年度収支が2017年から赤字で、向こう10年近く赤字が続く予測と

なっております。

また、本来緊急時のために積み立てている財政調整基金を毎年取り崩して財政運営を行っていますが、その財政調整基金も来年にはなくなる予定です。そうなった場合、特定目的基金を一般財源化しないと予算も組めない状況が待っております。

先ほども説明したように、今のまま現行の行政サービスを継続していくと、**2025**年度に全ての基金が枯渇する予測になっております。すなわち、言いたくもない言葉ですが、破綻を意味すると私は思います。

まず、この状況をどのように考えておられるかお答えをいただきたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐総務部長。

▼○総務部長（大久佐明夫君）▽ 昨年12月にお示ししました中期財政計画は、先ほどおっしゃいましたようにあくまで現行の行政サービスを何も変えることなく続けた場合として試算をしております。現状のままの財政構造であれば、基金の残高は減少していく状況だと認識しております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今、財政構造がこのまま変わらなければ、この財政構造を改めるといのはなかなか簡単にはできないことかなとは思っております。そんな中、今年に入り新型コロナウイルスが世界中に感染拡大し、日本、そして安来市にも大きな影響を与えております。

そこで、お尋ねをしたいと思います。

新型コロナウイルスが安来市財政にどの分野でどれだけ影響を与えていると思われませんか。お答えをいただきたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐部長。

▼○総務部長（大久佐明夫君）▽ 新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、様々な分野において多大な影響を与えていると認識しております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 現時点ではまだいつ終息するか分からない状態でもありますので、当然そのような答弁になると思います。

財政面から見ると、今後税収もかなり減ってくるんだろうなということを私は心配しております。

続いて、私は情報は持っていないのですが、影響が出た分野について国などから今後支援はありますでしょうか。情報を持っておられれば、教えていただきたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐部長。

▼○総務部長（大久佐明夫君）▽ 市に交付されました新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金をはじめ、国、県の支援が実施されておりますけれども、終息が見込まれない中での新たな支援の情報はなく、今後の動向に注視したいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 多分、国や県もいろいろなことを考えておられると思いますので、支援はあるんじゃないかなと私は思うんですが、現時点で将来そういう支援があるだろうというようなことを考えて財政運営は決してしていただきたくないと思っております。

それでは、昨年12月の中期財政計画で示された事務事業の見直しの徹底、行政の効率化、適正化の推進、公債費負担の最適化の3つの重点的な取組はそれぞれどこまで進んでおりますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐部長。

▼○総務部長（大久佐明夫君）▽ 中期財政計画におきまして、3点を重点的な取組として位置づけてまいりました。先ほど議員がおっしゃられたとおりでございます。現在、見直し項目の抽出等、その実施に向けた具体的な取組について、行財政改革の断行をキーワードに、令和3年度当初予算編成を見据え、この4月から何度も管理職向けに見直し重点項目を示して見直しを進めています。

また、サマーレビューとして、令和3年度の予算編成前に見直し状況のヒアリングを、9月、今月中に実施する予定であります。

あわせて、公債費の繰上償還なども検討しておるところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今あった答弁を聞きますと、行政の効率化、最適化の推進については明確な答弁がなかったと思いますが、業務の自動化、それからITなどを積極的に利活用する、また公共施設の在り方の検討を急ぐというようなことがありましたが、それはどこまで進んでおりますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐部長。

▼○総務部長（大久佐明夫君）▽ 業務の自動化、これはRPAといいます。

それから、AI、人工知能を活用したものにつきましては、既に活用を行っているところでございます。人工知能の活用が中心となりますけれども、具体的には議事録作成支援システム、これはAI、人工知能が音声データをテキストに変換するものでございます。

それから、手書きの文字をスキャナーで読み取り、AIがテキストデータに変換するというもの、それから介護のケアマネジャーが介護を必要とする方に提案をいたしますケアプランをAIが過去のデータを基に2つのプランを作成し、提案するものなど、既に取組を行っております。

また、公共施設の在り方につきましては、随時検討を行っているところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 市長さんは、以前から、私が何回も財政問題について質問をすると、ほかの自治体も厳しいと。

また、基金残高が自分が引き継いだときには31億円しかなかったが今は56億円ほどあるとか言っておられますが、このような説明では2025年危機を乗り越えることは到底私は

できないと思っております。

また、その都度、その解決策として基金を積みますとも何度も答弁しておられますが、基金の積み増しもできておりません。

私は、危機を乗り越えるためには具体的な行財政改革の内容がないと進められないと考えますが、具体的な内容はありますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐部長。

▼○総務部長（大久佐明夫君）▽ 行財政改革につきましては、昨年12月に、行政改革審議会からの答申を踏まえ、今年の3月に行政改革大綱を策定し、4月から5年間の、併せて実施計画も策定し、進めておるところでございます。

中期財政計画においてお示しました重点的な取組を実現させるべく、行財政改革の断行により、経常経費の削減や公債費の繰上償還、道路等のまちづくり事業費の年度間の平準化などにより、財政構造の改善の取組を進める考えであります。

具体的な取組項目や効果額につきましては、来年度の予算編成に併せ、来年2月下旬頃になると思いますが、お示したいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ これからは、今回の私の質問の核心の部分に入っていきたいと思っておりますので、ぜひともこれらについては市長さんからの答弁をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

安来市のこの危機的状況は、何が何でも乗り越えなければなりません。そのためには、中期財政計画で示されている先ほどもあった3つの重点的な取組はもちろん進めていただき成果を出してもらうのは当然ですが、これについては1年や2年ですぐに大きな成果がなかなか出ないと私は思います。

では、どうすればいいのか。私が現時点で考える現実的な方策は、今休止状態になっている安田地区の新工業団地整備の中止を含めた見直しです。新型コロナウイルスの感染の終息が見通せない中、現在の経済状況で工業団地を造っても、進出してくれる企業がすぐに出てくるとは思えません。企業の投資マインドが相当冷え込んでいる今、それは当分の間難しいでしょう。仮に、今の休止状態のままですと、特定目的基金の地域振興基金を7億円取り崩す分と分譲がうまく進まなかった場合の分譲収益金約8億円も返済のために確保しておかなければならないと思っております。合わせて約15億円は、このままでは使えないお金になってしまいます。このお金が使えれば、2025年危機を当面回避することもできますでしょうし、3つの重点的な取組で成果を出せば、時間がかかることが考えられる収支改善も克服できると私は考えます。まずは2025年危機を乗り越えるためには、喫緊の財源確保が必要だと考えます。そこで、今休止状態になっている安田地区の新工業団地整備事業は一度中止にし、コロナ禍や経済状況を見定めてから、もう一度場所も含め検討しても遅くないと私は考えます。今すぐにやらないといけないのは、工業団地整備ではなく、2025年の財政危機を乗り越えることが最優先だと私は考えます。

そこで、市長さんにお尋ねいたします。

安田地区の新工業団地整備事業を一度中止する、見直しするお考えはありませんでしょうか。今が政治決断をされるべきだと私は思いますが、いかがでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員さんの質問にお答えいたします。

まず、2025年問題と言われます。今、県内の8市の、インターネットで皆さん地域財政計画を見ていただくと分かると思いますが、8市の中で6市ぐらいがほとんど、このままでいくと基金が枯渇すると書いてあります。

そして、私は、決してこれはいいことではなくて、何かの対策を取らなければならないということは重々承知でございます。

しかし、一番最初の質問でございますが、お答えしたように、現状のままであれば今の基金がどんどん減っていきますが、私が市長になったときの31億円が、一番多いときは92億円まで積みました。基金というのは、そのままでどんどん減るばかりではありません。いろいろ工夫して、いろんな政府の資金とか、いろんなもので私は61億円積みまして、92億円までしました。そして、大型事業をいろいろやってきたところでございます。そして今五十数億円か60億円になっておりますが、よその市のことを言っちゃいけませんけれども、まだ我々より二、三市が大変な状況ということは、山陰の中でほとんどの市がそうであるということをご認識いただきたい。

そしてもう一つ、去年の11月に財務省が来たときに、令和5年か6年度には、公債費——借金です——これが大体100億円減ります。これもちゃんと試算で出ておりますから、こういうふうに総合的に考えてみないと。今の基金のままでずっと状態を続ければ、だんだんなくなっていくのはどこでも同じことでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

それと、工業団地のことでございます。

今国のほうは、交付税をくれくれと地方は言うけども、自分たちでそういう税収を得るところを造れと、こういうふうに総務省、財務省は言っております。我々も、工業団地を造れば、いろんな土地、あるいは建物、あるいはその償却資産から固定資産が入る、またそこに雇用が生まれる。どうしてもそこから長い目で見れば税収が増えてくるということで、もうけていくということも1つ大事でございますので、その点で工業団地につきましては将来の安来市にとりまして必要なものであると考えております。現在は、先ほど作野議員さんがおっしゃいますように、コロナ禍であって、経済の先行きが不透明でございます。そのこともありまして、市全体の行財政改革を進める中で、調整を図りながら工業団地計画は進めてまいりたい、こういうふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 私も、いつも市長さんからほかの島根県内の自治体の状況を

言われますので、調べてみました。一番厳しいのは、大田市でございます。たしか、全ての基金が令和4年になくなるということがホームページに載っております。それから、江津市は、災害とかがあって、ホームページ上には載っておりませんが、かなり厳しい状況だというふうに推察ができます。そのほかのところは、安来市に比べるとまだまだいいのかなというふうに私は拝見しました。そうはいつでも、それはほかの自治体の話であって、安来市がどうかということとは全く関係ない話でございますので、いつも市長さんが言われるので、私もちゃんと調べてまいりました。

それと、工業団地は必要でないということを私は言っているわけではありません。しかしながら、今のこの状況を見た中で、何を優先的にやっていくのかということについては私は今は工業団地ではないと思っておりますので、そのところは市長さんとは意見が違っておりますので、そのように申し上げたいと思います。

今政府も、新型コロナウイルスで、今年の4月に一度閣議決定した収入が減少した世帯への30万円の給付を閣議決定後の後取り下げたりもして、特別定額給付金を一律10万円配るといようなことを変更もしました。政治は、その場その場でしっかりとそういう状況も判断して、適切に国民、市民のことを考えて政策を打ち出していけないと思っておりますので、私の考えもここで述べさせていただきたいと思いました。

それでは次に、安来市財政にとっては市立病院の問題は避けて通れない問題でございます。市立病院への一般会計からの繰出金も、昨年度はなんと8億円ということになりました。依然、安来市財政を圧迫し続けていることは変わりはありません。

そして、改善へ向けての基本となる職員組合との交渉も、いまだうまくいってないと聞いております。設置者として、市長さんが先頭に立って職員組合との交渉にも臨まなければいけない段階に来ていると思います。とにかく、市長さんが現場の意見を直に聞き、対話され、協力をお願いするなど、先頭に立って進めなければならないと思いますが、市長さんのお考えはいかがでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 安来市立病院の経営健全化というのは喫緊の課題でございます。我々も重要な課題であるということで認識をしておりました。

先ほどご指摘のように、職員さんとの対話ということでございますが、4日に、今度職員さんと市長がお話をする予定にしておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ とにかく、2025年危機までもう5年しかありません。3月定例会議でも、総務部長が、前例にとられないという言葉が使われました。とにかく、私は、前例にとられない大胆な歳出削減を実行していただき、2025年危機を乗り越えるための財政計画を短期集中でつくっていただき、そして職員が一致団結して進まないこの難局は乗り越えられないと考えますが、市長さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 今後、職員が一致団結して行財政改革に取り組んでまいりたい、こういうふうには思っております。

そして、先ほど総務部長が申しましたように、来年の2月頃にはきちんと数値で目標値を示していこうということで、具体的に数字を出さなければ、口で行財政改革やら言っても駄目ですので、こういう目標値を定めてきちんと皆様方にお示ししたい、こういうふうには思っておりますので、よろしく願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 一致団結して進むには、まずは職員さんとの融和が必要だと思いますので、しっかり体制を整えていただいて、行財政構造改革を、財政構造の構造をしっかりやっていただかないと私はこの難局は乗り越えられないと思いますので、そのあたりもしっかりと考えて取り組んでいただきたいと思います。

以上で私の一般質問は終わります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 以上で9番作野幸憲議員の質問を終わります。